

コアシンポジウム 1

「炎症性腸疾患の最新治療戦略 【T2T (treat to target) に基づく IBD 治療戦略】」

主司会 土屋輝一郎（筑波大学医学医療系消化器内科）

副司会 三好 潤（杏林大学医学部消化器内科学）

昨今、IBD 治療において T2T の重要性が認識されつつあるが、実臨床において実施可能で普遍的な治療戦略は未だ確立されていない。症状スコア、バイオマーカー、画像、内視鏡など様々なモダリティが登場しているが、どのモニタリングを指標にしてどこに治療ターゲット及びゴールを設定するのかを明確にしていくことが必要である。本シンポジウムでは多施設・単施設での T2T 治療戦略の取り組みを幅広く募ることで、将来的な治療戦略の展望を共有・理解する機会としたい。